

研究分野	海洋構造	部名	浅海環境部
研究課題名	海況予報高度化技術確立調査		
予算区分	県単		
試験研究実施年度・研究期間	H.7 ~ H.18		
担当	小野寺 陽子		
協力・分担関係			

〈目的〉

海況自動観測システムによる観測結果と、試験船による海洋観測結果等を総合的に解析することにより、陸奥湾の海況予報技術の確立を目指す。

〈試験研究方法〉

(1) 茂浦定置観測

休日を除く毎日午前9時、茂浦地先の気象(天気、水温、気圧、風向・風力)、海象(表面水温、比重)の観測。

〈結果の概要・要約〉

(1) 2005年の茂浦地先の水温と気温

茂浦の定置水温は、6月下旬まで概ね平年並みか平年より低め、6月下旬から7月上旬まで高め、7月中旬は低め、7月下旬以降は、平年より高めか平年並みに推移した。茂浦の気温は、1月から6月中旬までは平年並みか平年より低め、6月下旬から7月上旬までは平年より高め、7月中旬は平年より低め、7月下旬からは11月中旬までは概ね平年より高めに、11月下旬から12月までは概ね平年並みとなった。

(2) 2005年の陸奥湾の海況

1) 水温

水温は、各ブイとも、1月~6月中旬まで平年よりかなり低めに推移したが、6月下旬からは平年並みからやや高めに推移した。さらに、8月中旬からは平年よりかなり高めに推移し、この傾向は11月上旬まで続いた。その後、水温は平年並みに近づき、青森ブイと東湾ブイでは、12月中旬以降やや低めに推移した。

2) 塩分

塩分は、平館ブイでは1m~15m層の3月~5月で平年よりやや低めに推移した他は、平年並みであった。青森ブイでは1月から6月にかけて1m層と15m層で、平年より低めに推移した他は、平年並みであった。また、東湾ブイでは、全層で1月から5月まで平年より低めに推移し、その後は平年並みであった。東湾ブイの1m層の塩分は平年より1.0以上、低めの時期もあった。

3) 湾中央部(東湾ブイ)底層の溶存酸素

東湾ブイ底層の溶存酸素は、7月中旬以降10月下旬にかけて低下し、10月下旬に最も低くなった。最低値は、10月28日に観測された2.2mg/l、飽和度29%であった。

4) 湾口部(平館ブイ)の流況

平館ブイ15m層、底層では、年間を通じて南下流が卓越し、15m層では4月下旬から9月中旬(特に7月から8月)にかけて、底層では5月から10月にかけて強勢に推移した。

5) 気温

東湾ブイの気温は、1月から6月上旬まで概ね低め、6月下旬から11月上旬までは7月上旬を除き、概ね平年並み~やや高めに、11月後半からは平年並み~やや低めに推移した。

6) 風

1月~4月は西風が卓越、5月~8月までは東風が卓越、9月~10月は東風と西風が交互に、11月~12月は西風が卓越した。

〈今後の問題点〉

陸奥湾の海況のよりの確な把握並びに変動要因の究明と変動解析モデルの構築。

〈主要成果の具体的なデータ〉

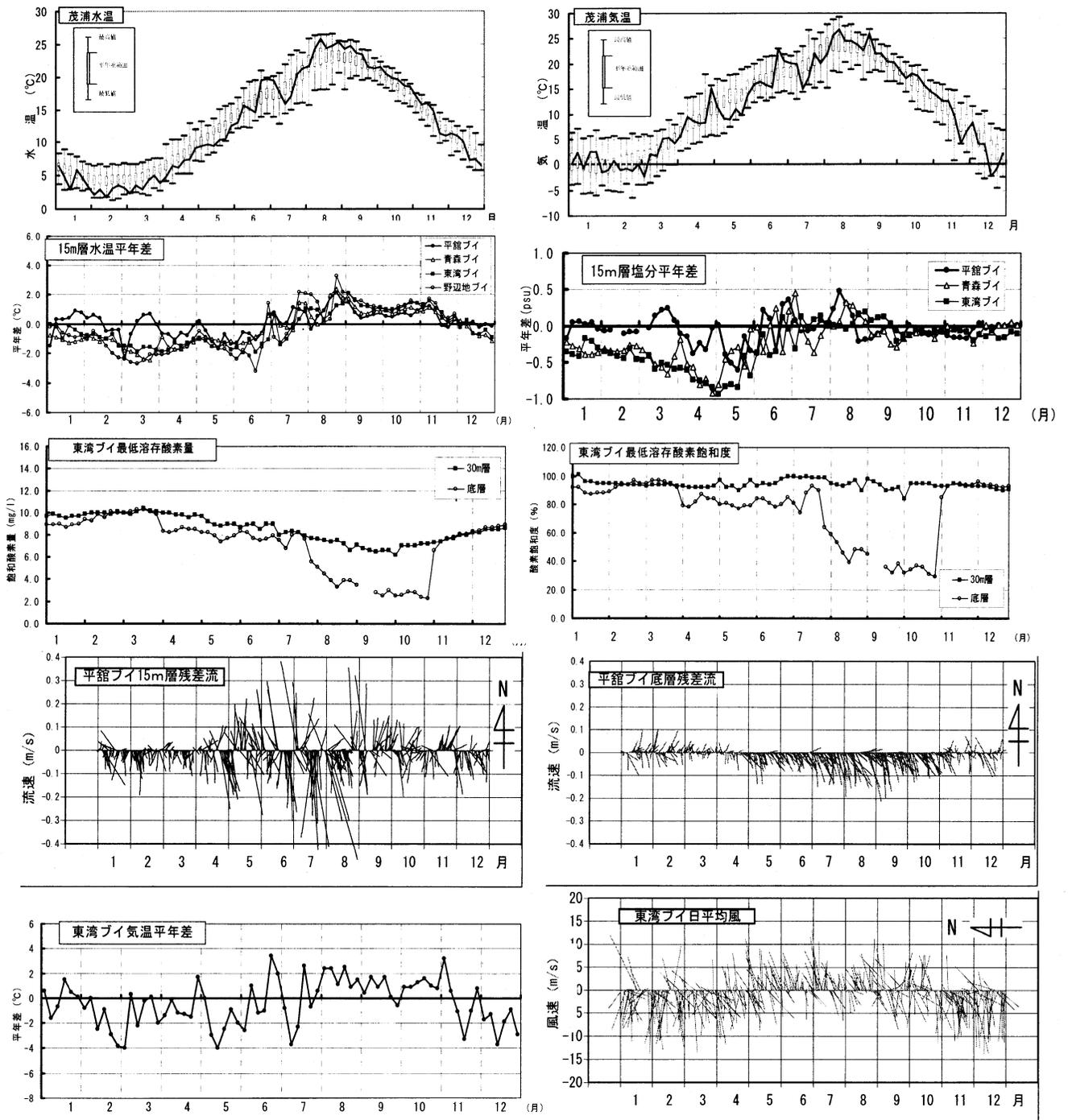


図 茂浦地先の水温と気温、陸奥湾の海況等 (2005年)

〈次年度の具体的な計画〉

前年度と同様に定置観測、陸奥湾海況情報の発行を継続。

〈結果の発表・活用状況等〉

- ・ 陸奥湾海況自動観測システムによる日平均水温・気温のグラフを、当研究所ホームページで公開。
- ・ ホタテガイ天然採苗会議 (全 10 回)・ホタテガイに関する情報会議 (全 10 回)、春季・秋季のホタテガイ養殖実態調査に関する会議 (全 4 回) において海況情報を提供。
- ・ 日本海洋データセンター (JODC) に茂浦定置水温データを提供